佛説うらぼん経

863
126

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』 請求記号 863-126

ガラス使用

863-126

俳諧あれのまゝ

洞海舎李尺編
山居由之校訂
陶江舎有美仝

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126
ガラス使用

山はさ
まつのこえ
むらはと
うたゝねと

佐久渡山
初雪を
とゝ
ゆ
雲
こゝ
雁

恒丸

戊寅秋
富士
李人
玉晨

本やと寄す
そをとゝ
あかい月
さゝき
成美

鶏一羽来てこの寺
ものもす 麓系丸 巣兆

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』 請求記号 863-126
ガラス使用

引詩

一いにしへの人の俳諧集に
あれこれなどいふのこまごまとわ
ざとひらがなの心をもてそなへ
蔦こそ雪の朝の剃刀をもひ或は
の花をんなをまつ斧をうけ
きこの句集にも載あるわ
けもこゝにかゝるものをまこと
字をもて詠ずんと思よりわ
同試しに詩にも詩しものの
ものりにもてなをまこと調ておちわ
人この一字しまこのまを
ふ初をもてゆのまを
と呵なまに罪こうはのうを形
くやいつれやしまてやあ

一前の一句は鳥兎の
うたわり新まを屋の形
はたくはるをまを待
蔦こそ雪にまわいちまを
をもうをあをまをうを
はをあれめ俳諧に胸をふはいて
ゆうれ蔦はやの系月尾をようき
黄ををめて芭蕉におろをの形
まをてこまをを又一句
西ををくをしまあひ
林の屋一句やいを
まをのみちれくを
をやう形のをんまをひを
下卵やををひはをん金
の系をんを生をまを
心をひをを猫の人まねを
をををこををしてをを人の一集を俳ををの

[illegible]

書つけ侍るもれも案

一きて式集はめるに俳諧もまことにたゝんと
たのまれて愁よすることをはねもんを
さきのうめきれたるをまきをいつまの
集れ侍ものゝひろに入くんこうものゝし
をうしまゝ山ゆらぬとおのゝ山をするをけ
きるをうをめくんこゝあの嶽あつ
めてひつまゝふきえをうて
ゐ宣のけゝやうのあるまをあわれまの
この寺並ゝきて集れを五ものゝ
ゐてをうしめまて

こゝまをおるゝ里人を由こ

山城

山茶花を挿ときくゝきんをゐてを

をまこのうゝあてあを社のきめ新宋樓の新　蒼虬

夜れ疑子立なのらはまてれ所ろ巷　梅室

あきの木や万年形とをゝ新あゝ海　子崖

萩う年まるめふるあ風れまを　茂雅

ゆゝ薬茶さをゝと米けてるつまや　布雪

はゐあきれ仏をうあ新を　定雅

金菜

を水のちるまぎれに芝ちる　杜蘭

降るとも雪や寒ぎ菜をわるるく　梅價

ち梨をうつる花をまて野すせるぶ　白孫女

新れ別寺山路ふる新蕎麦の孔　其成

あき霜の芝まぶ中ひるるはらぶ　十壺

あるるやけ〳〵ぶ日和れるあ花　ち卯

蛍く来ふ芝まぶ寄あ蕎麦の時　芙九

穴角やこ水しけきるふ徐の文〳〵　尾全

一

あ〳〵沼ゆくふ芝をくて芋穴の花　空の

河貴や窗ふら水をくるふ小家　草阜

ふ野ぶ野ぶあき日ふゆるやを寄〳〵　野水女

大和

あむまりと松りふ芋あ新本るふ　猿駕

河内

四れ水ふひのあ失ふまて乗ふ新　未紀

木の骨を化して時のの門れ蟬　月蕃

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』 請求記号 863-126
ガラス使用

初泉

ちる雪のあらひなかるる松の葉ぞ　喜齋

まく柱別るゝやうに葉れ通ひ　乃月

摂津

夏ごとに水こまるあうの葉れ　月居

ちりやあるまきとく夏小田の新　万和

鮮あるんこのゆの梅れまるる香　奇湖

気ところ晨実植芳し椎の花　三津人

二

をみまを一夜のちのめそ那うわさ　井眉

ちるなき會よあるゆや植菊まきみて　長齋

雪ちれ色をうちちぬすまるれぶ　屋烏

ちるれのちうの花白き山れるる　魯隠

いろるろすこの別るるんをみ蓮　鵞雪

鶯れそよかとこかを松の葉を梨　尺艾

うめの香ふの一すて梨ちるれ　竹戈

はつ雪ふ気あひまを時の湖　朱義

小夢を於うそて野わの神しる　夷尼
さそなれは夢をあれよとや海の子　木海
目をくまぬ山つきに入る我こそ　月巣
作面は面をあらそう冒るとも特れ舞　草高
ゑ梅のさし出るいろやそめの中　約翁
ひ外るとと四つをこのさ代ゑ新　星譜
精をはたひ夜やまし枝れを　呉光
冒辻やけさもこゑまし梅のそゑ　相栖

首うれ義と帝わまへ仕むゑ葉　一草

伊賀

菊れ魚を夏うい夜のけそちゑ亀　猪未

伊勢

清水あるもと見えて折まる葉ゑ新　挟堂
折くやそまいのうち夜の明る　省吾
まれゑ言をとさのしてまりゑ愛　墅渡
おとゝまそ年のそまわれ花柑子　畜山

行とゝまるやそれ嘉　野鳴
眼のまへて毎きゝる秋待月　湛石
百はまやまさねを船うゝこゝろ　推己
四一牧おうの必とまるめ家　翠川

尾張

寒ゆゝきまる未れ間を夜のまに　岳軒
曇れこまこの中山なとゝ案事　如汝
そこの手めゝ月とゝまこゝ唐ゝ家　東陽

鈴ゝ宗ふい船ゝく馬ゝ立を春ゝ雑　梅間
松の影や清ゝ唐ゝ月れゝ乃　鹿野
きゝ人咲や名の有ゝ言ゝ見ゝえぬ宿　月庄
あさのまれるゝまゝ作ゝれやゝまつゝる　沙路
よゝ家ゝ中ゝ月ゝさゝ出ゝ八雪のちる　宗樹尼
花れ木の雪をゝ船桜ゝはゝれゝ乃　而石
ゝ女ちれや上四一寒ゝる豆腐ゝ　稜行
鈴ゝ家ゝ行れまゝ寒ゝ乃　呂川

雅うすかるやうにて花こむ寺蓮　塊翁

三河

玉藻の海や形よわすくるとて梨　卓池

うき出てこちら向くや牡丹　杜琴

寒さとも雪すゑくまてまたる古寺　賣菜翁

遠江

うらひ長れこころとけうる暑のうち　瀾古

甲斐

風見わてゆくとさすしく家けさの秋　の於里

たゝ法師やゆくゝめあるきさ月のうち　漫て

ゆゝ新やゆくゝ暑まさすあるこるれ秋　玉津女

チ子の和れ寒よ新る花ろ水ゝ　有斐

水屋ろうの窓の法ゝ寒極の乳　堀村

蔵新寒はみえて百ゝ赤横　宣行

はふの日ゝ立ゝ武ゝ狐の尾　嵐外

相撲

これ一回をすぎたるの花　繁啄
ちるとやの声よりてのひびて盈るる　洞て
たくまことは彫寺は彫まや彫く　鳥流
如来堂やとやめくまくるる小嵐　松蘿
学ぶやめくるるはけるの春寺　秋茉
なれかりうるは彫ぐまるけるる　玉珂

武義

斧うけたる村のゆきやすくて　金令

六

梅は雑巾を絞きぬあぼれ　一蕙
竹長のまるるみしうめれくる　こうめ
芋の声や縄まるの下けて　守静
ちりうるや水くれてを花なる　竹仮女
痩るの色ともまに歩しきる　陶里
まるる花れあるを彫ぬたる　寒船
村の路のなのまるやを林の　得蕪
小給人うるあのけるしう郎　一哦

清雪や いとけなき子の 袖よりも　袁丁

ふかしてうとん屋さびし 夕さりの峰　可齊

空きし 松本よりあれ 十日立　竹馬

屋敷寺 けのねのもるそや 袁むとも　久滅

立ちやや 蓮のおくまでもきこゆる　素玩

松の影 ふるさやや 夜まつ 左ら 夜　諫圃

橋のもとてさそ 水音 わくも 立みれ 月　芝山

あるさけの 出るそ 雪けふ うかよふ　國・村

七

豆腐 ふすれ 茶ても ひしゃ ふ言　燕市

きれ ふる 花も 木の 葉の あ し 山　玉齋

かとし ふ すし きりつや 鱠 この 宿　秋色

小笠原 れ 弱 る 松 て け る ふの 白　惟平

ひ ひ て 岡の 蕨 ふ ま さ ふ ハ し　菱雄

むら 烏 雲 因 そ あ え の 江 月 の 去　芳洲

細 そ や は か ふ る 松 く け く 橋　甚堂

あ る つ さ 母 ふ を な ら 逢 さ ら　九朴

梅ちるさ〻夜れ伏をとゝめ侍る　可布
くら澤の春ときめけ焼栄螺　明良
春こゝろのあさを小まんこの小袖ひつ　濱藻
菊さくや多胡の入をとをれ隅　碓令
砂山は芦垣さきつの月　孤山
小漁家や海もちよ仏をこゝろ　菊塢
春雨やさくらの花こうこうと　多光
ふれるは多新さこのきん松ゝこの那　護物

八

月よさくなけうむ雲ふたゝ　雪芝
うつをゝみの芦はちよいとすゝ川　蕉雨
木れたゝの信太つはの情捨ゝ　左節

安房

ものゝふいるれこゝ芝この那　於長
寺これそこあるやはる霧さゝ村　甚文
かひまこうまきこれゝ　部賀

上総

[illegible]

下絵

[illegible] 九月ふる　雨塘

[illegible] 桂九

[illegible] 柳

[illegible] 李峰

[illegible] 蒼峰

[illegible] 東騏

九

[illegible]

正月や猫の[illegible]　蕪廸

小屏ゆ[illegible]　北尼

月花と[illegible]　東洋

ゆ[illegible]　尚山

[illegible]　孔柴

山[illegible]　[illegible]

[illegible]　汝南

[illegible]　素月尼

なのこの花はなほ遠ざかる　士人　春岱

花すゝ散れ机のうへ、れ入る、ゆ九

なのちらうを動うあるものよりは秋の海、き世安

追江

岩と鼓よりも弁松を通りてゆくる　烏頂

こゝろ〳〵や獨りの月ゆ　ふ菜一をい　仙風

すき形と活て鹿まつはらぶ　子新

はひ出さて花うはたらてきて庭こてろ　亞渓

十

はる形〳〵樹をそ形れこうを相手　志宇女

いはまてこの夜寒の月を苦れ上　申齋

ふる寺〳〵松まてくまいなるろ　宇洋

法乃きをを花ふいをて壬世を佛　車道

信濃

を弁形〳〵春ふ松寺はおほろこ　素礫

秋のあやと楽はくゆの芝のを　美人

梅咲てこのくまきちまめ　雁の乳　梨翁

虫ばみやゆるさん大きう動るまふ　八朗

はる寒き窓や蔦のめれあしの音　草司

考ひよろ云いよろ神も立ぬこと　一葉

上巻

板れ実や世そうしたるあのひろ氣　月鴻

下巻

こうら雑のはたことかめ〳〵主こう郎　葛羅

巻と山ゆ〳〵うふそきの口月び　まさ改

十一

柚のはもやひろ送てもの蔵　北岱

陸奥

花ぐまり定嶽しれうめ咲まそ　雨考

うすえそう我ゆみこそあさこそ　夏女

新すめうこそれうふ板れそ蔵　与人

ひたち柚よこうこたわ一つ三日の月　黙明

とまりしも涙ことまりやこうあうそ　ぬ磬

板れ相まこまて生るるうとしし　乙二

[illegible]　雄渕
きくとてわかぬほとの面　きよ女
[illegible]　百非
[illegible]　大呂
[illegible]　曰人
[illegible]　旦て
[illegible]　午角
[illegible]　望山

置[illegible]　子弦
うらのすゑをぬきて吹る金[illegible]　谷雄
海と[illegible]月夜[illegible]　素江

笛鈴

めて是[illegible]　帝席

朱羽

うらをすゑて吹る　壁招
椎の木もあまり吹る　淋山

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126
ガラス使用

越後

春てゝたてゝ鶯なる谷の梅花月よりそてて人のいとくるわ　國九

うめしと酒をうけるわはるの月　左琴

丹波

新しるひとつとあまをとる春　武陵

月はあるとかうあるとはうきつはる　望楊

丹後

入きたりたりたとうんをてゝ月　百義

播磨

百ゆくよりあらう宮ゆてゝ海仏とあ　五屑

備中

をわこ屋る峯や出てゆくあ寄れ雲　梅蘭

五六新家材のまゝ　やきの年　掉歌

備後

法伊蓬ゝ　已の鼾まあ　義六

あ藝

新たまつ　みすやけされ秋　萬老

湖川やひ秋ふれ　ぬ　九十

鹿行やものうそ夜の　雅　玄蛙

ち つ

あさの木や　きれよこそのちらあら　羅風

漢改

ものあの　すあ　時て五月雨　三無

十四

伊豫

さすが　一時　むかし　秋　静山

うつ　ものれ　てかう　石男

芸後

月　むら　きれ　ろ　ふかき　月化

たれ　ふ　人　ま　松　宿　蓼亭

肥前

生　紀　そ　ま　の　ま　し　ま　秋　の　菊　也

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126

ガラス使用

はらしと木風をあまたゝる時雨哉　祥永

あつ所ゝも犬の唐つゝ菫の色　鶴洛

ゝたのあるゝまきまこのうちの山　はめ

日向

唐ゝ唐ゝゝゝ和海苔ゝ頃の水　美義

薩摩

本ゝゝゝれゝるゝゝ船ゝゝ蓮　園曳

船のけや我ゝ舟ゝゝゝ松の蝶　青梁

ゝる浪ゝゝゝゝ出ゝゝゝ安ゝ月　琴列

常陸

いのちゝゝゝ船ゝゝゝゝゝゝゝ　湖中

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　松風

船ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　由之

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　有美

船ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　化迪

松ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　甚美

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126
ガラス使用

ひるがれて山のぬく　雲撥
毋れるに眺めうちわたす月　古柳
うたひすまるあふひよまるやさく清水　蒿柵
軸のまゝ尾をもつかんなる　柳雨
薪をもとめて焼壁ぶ　鬼卒
鱧うく二軒家ひゝ　朱城
小雨ふる長れたく紅れ　柳の郷　文雅
夏の代りの日の松の仲　ゆかりけり　春雨

花葉敷ふ志ゝ　白芳
さそひ合ふすゝ　九文
月夏うまゝ夜ふ　三有
り雲やにきわうめ　杉江
小雪降ぬ　むしの言ふ　義糸
ふる日を見ぬ　山れ二月　雪守
既邑有しれ　立うる春の水　春袁
男爵を春の田すの五六尺　昭眉

白うふめをすかしそうの潮こすり　の量
芋れ戸より入るきのて清ふの義　抜丸
渇してもとのこころこるしうこ　仙雅
松の戸やいくるる花のちりすき　祇鳴更
小薄の穂れとけくらやゆ経子の春　碧山
海よ添ふて一つもて来ふ嶺の春　春白
新藻寄てこうけてのもまて形く城　義六
あるまれ丸を吹風ら小紫を　一止

十七

夜や寒く莫菊の華ちるを　甚小
合歓の花我まこ花の華ふ　静月
結れよまとてこかるて小萩ふれ　晋涼
前の庭形て吹て眉寒く　静花
ちるるやそまふるるを面　吾午
いさてまま菊の海を五位ふ隠る　眠石
ま稲ふ立てこうまとこ日ふ月　眠花
小松ひくあやなるく神代めく　青義

口の葉て笠渡よりはなる時雨し　知雄
もいつるとともにあるうはのうめ　乙人
きすてられやらうとの空を赤蜻蛉　こすゑ
舞蝶よむしろ屋五郎ひくこの人　飄翠
人も絶しやうすれんゆる清水ぶし　里芳
蛙のゆえいけ毎うけてもつのもめ　李尺

うめの香ふみてはつる山路ぶし　芭蕉
ものしりと絶るけ時雨きり　乙波
乳蕾清を美のてきまふわ　仝
上のそよあるるふ茅の垂　芭蕉
よるけうちはしとき月の雲　仝
義経を形すあきれとあり　乙波
はは一業すとるめいわくさ　仝
娘を聖人まは鈴ぬ　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　芭蕉

追加

かすみきれまふ秋の空　江戸　風谷

なのきの花のさかりあまた集句　永写

朝日さす水のよ[illegible]　五老

夜をこの[illegible]　下総　野老

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126

ガラス使用

う治の夜を小ちきて郭公　常孝　三調

生の子まてたちわ見し柳、　士人　鈴魚

山住みのうの花のあへなくく　下総　さ夫

まるやめまてえむる新よせ、鑄て

胡麻こ粒はねて半人嶺　霜の朝　伊豆　一飄

花すゝきまるまらてこみちあり　常陸　亟山

二十止

やこ三沢沢瀧。乃夫

我行新日淋雲流

共世。富士山美家

心を春。曲さ三臣

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126

ガラス使用

863
126

14207

清水家
本末
成家
無量
老人

文政元戊寅年九月

常陽敷ヶ浦

洞海舎藏

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』　請求記号 863-126

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『ありのまゝ』 請求記号 863-126

ガラス使用